

<高付加価値型農業に取り組む事例>

農作物の品質維持と生産拡大を目指して

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県東温市 板屋ノ子			
協定面積 6.2ha	田(64%)	畑(36%)	草地	採草放牧地
	水稻、野菜	しきび、野菜		
交付金額 91万円	個人配分			55%
	共同取組活動 (45%)	役員手当		8%
		湧水処理工事費		11%
		農道・水路管理費		19%
その他(積立)		7%		
協定参加者	農業者 7人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

板屋ノ子集落では、農業に従事している者の高齢化、また担い手不足が深刻化する中で、耕作放棄地を防止するため、平成12年度から中山間地域等直接支払制度に取り組んでおり、集落の一層の活性化を目指している。また、以前から付加価値を高めた農産物の生産に取り組んでいるが、平成23年度(3期対策)からは、2期とは異なる体制整備(農業生産条件の強化、高付加価値型農業)を選択して、更なる農作物の品質向上を目標としている。

3. 取組の内容

高付加価値型農業の実践として、農作物の無農薬栽培に取り組み(現在では1.2haで栽培)、また、持続性の高い国の有機(JAS)認定を受け、一部ではアイガモを利用した栽培にも取り組む等、環境にやさしい農業を推進している。さらに、3期対策では、JAS認定区域を約3,000㎡増加し、有機農作物の生産拡大を図っている。

また、当集落が抱えている問題の一つとして、湿田と畑の湿害対策が急務となっており、その問題を解消するため、0.6haの圃場に排水管等を敷設して湧水処理を行うことにより、湿田等から農作物を守り、品質維持と生産拡大を目指している。



【板屋ノ子集落農用地全景】



【有機JASほ場に作付けられた葉ネギ・ごぼう】

[集落の将来像]

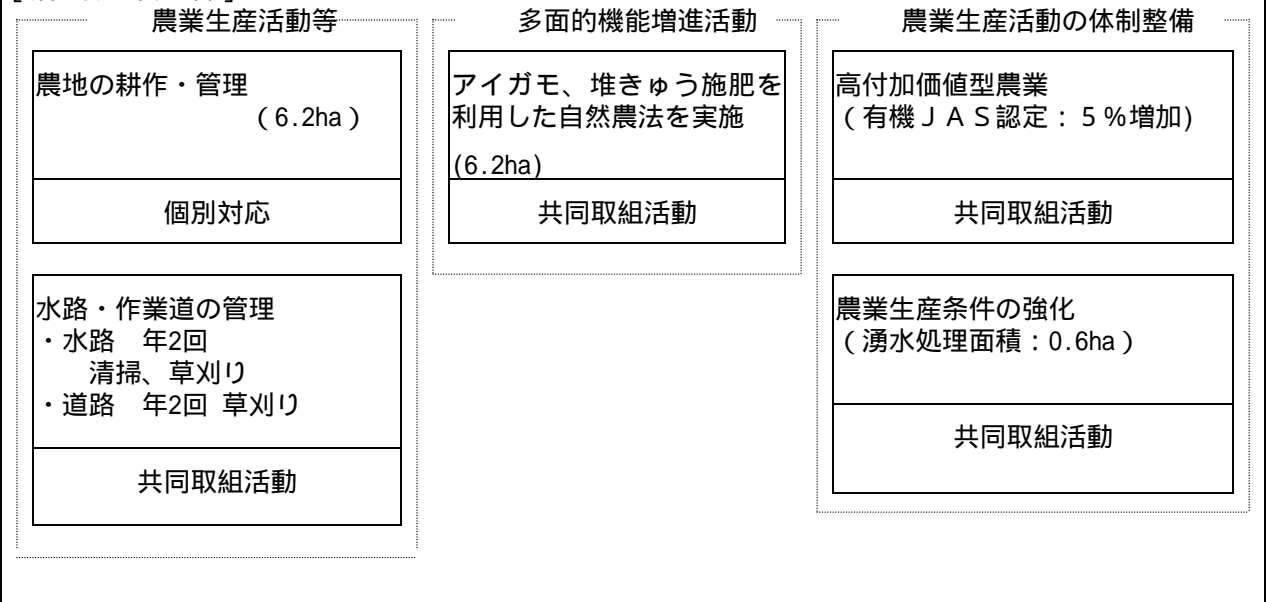
耕作放棄地を防止し、農村の景観に配慮し、また環境にやさしい農業、自然との調和がとれた集落をつくる。



[将来像を実現するための活動目標]

「高付加価値型農業の実践」「農業生産条件の強化」「多面的機能の増進」を重点項目に掲げ、将来像を実現するための取組みを实践する。

[活 動 内 容]



4 . 今後の課題等

高付加価値型農業の実践として、農作物の無農薬栽培に取り組むことは、小面積でも付加価値がつけば多収入となり、農業所得の向上にもつながることが期待できる。今後も当該ほ場を維持・拡大することで環境保全型の農業を推進し、更なる集落の活性化を図っていきたい。

なお、協定者の高齢化、担い手不足が深刻化する中、現状をどう維持するかが大きな課題となっており、また、協定農用地ではないが、集落内で耕作放棄地が増加しつつある。このため、今後は、協定間の連携や機械・農作業の共同化等も視野に入れて考えなければならない。

[第 2 期対策の主な成果]

機械・農作業の共同化（実績：耨り機共同利用農用地面積1.2ha）
多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落との連携（実績：非農家人数7人）